

## 「ラポールひらかた」に行く

たまたまフェイスブックで知って、「知的障害者を普通学校へ北河内連絡会定例会」に参加した。会場は京阪電車の枚方市駅近くの「ラポールひらかた」。枚方市に来たのは初めてだ。特急に乗ったら、意外と近くに感じた。

「ラポールひらかた」前に、児童憲章(前文)の碑があり、つい足をとめて写真に撮った。

一われらは、日本国憲法の精神にしたがい、児童に対する正しい観念を確立し、すべての児童の幸福をはかるために、この憲章を定める。児童は、人として尊ばれる。児童は、社会の一員として重んぜられる。児童は、よい環境のなかで育てられる。

枚方市立総合福祉会館「ラポールひらかた」は、ウェブサイトによると、住民の福祉活動の拠点施設。モダンな4階建ての会館には、住民の活動のための貸室、温水プール、ディサービス、福祉機器展示コーナー、福祉図書コーナーなどがある。「ラポール」とは、人と人との調和、信頼関係を意味するフランス語で、会館を使用する人どうしの出会い・ふれあい・調和・信頼関係が広がるようにとの思いを込めて名付けられた。

この定例会に参加したのは、9月に愛知で開催される「第13回障害児の高校進学を実現する全国交流集会」の案内をするためだ。会場に集会チラシのコピーが準備されていた。会の終盤に、自己紹介を兼ね長めの案内をさせてもらった。定例会では、障害児の高校受験や高校生活、「医療的ケア」が必要な子どもについて、情報が交換された。普通学校に通う意味など、示唆に富む発言が続いた。全国交流集会で、司会を担当するうえでも参考になることが多かった。

定例会に参加された方から、「LIP」という冊子をいただいた。LIP(りっぷ)は「枚方市民発の福祉・教育・文化・環境・ボランティアなどの情報を掲載する地域密着型情報紙」。ページをめくると興味深い記事がいくつかあった。なかでも「春のやんちゃっ子保養キャンプ(第12回3月25日～30日)」に目がとまった。保養キャンプとは、福島第一原発事故のために放射能に汚染されてしまった地域の子どものための保養を目的として実施。「保養」とは、少しの間でも放射能の不安が少ない生活を送ることで、心身のリフレッシュ・健康回復につなげることを言います。保護者との交流会では、福島の現状をお聞きしました。7年を経た今も行き先が決まらない汚染土の詰まったフレコンバッグ、放射能を気にしながらの毎日の生活、政府の帰還政策もあり微妙に違ってきた地元の人々の意識…。子どもたちの将来を思うと気が休まらなさと語られました、と。

思い切って「ラポールひらかた」へ行き、貴重な報告や情報をお聞きすることができ、収穫の多い午後のひと時だった。とにかく足を踏み出すことの大切さを痛感した。



(2018年5月28日)